2014（平成 26）年度 教育学部自己点検・評価報告書
ラーニング・アウトカムズの測定状況

【１】はじめに

教育学部では、2012（平成 24）年度にラーニング･アウトカムズを定め、2014（平成 26）年度から新カリキュラムをスタートさせたが、「学部教育で育成すべき人材像を３ポリシーに基づいて描き、ラーニング･アウトカムズとカリキュラム・マップによって、その人材像に対するカリキュラムの正当性を裏付ける」という段階にはいまだ至っていない。したがって、「各授業が掲げる到達目標の達成度を測る」ことはできても、「その集積によって学部教育の成果を測定する」という質保証の作業までは十分に行えない状況にある。

本報告では、教育学部が現在抱える問題点を明らかにし、その改善の取り組みと来年度への展望を示すことによって、本年度の質保証の取り組みの報告としたい。

【２】ラーニング･アウトカムズの再設定

今年度は、まずラーニング･アウトカムズに基づくカリキュラム･マップの作成を試みた。ところがその作業を実際に行ってみると、現行のアウトカムズが教育学の学問的体系に基づいて作成されているため、結果として専門科目の分類のような形式になっており、各専門科目に当てはまるアウトカムズが、その授業内容からほぼ１つか２つに定まってしまうこと、また同一の分野に属する科目が、基本的にすべて同じ項目に対応してしまうことが明らかとなった(1)。

そのため、教育学や心理学の学問的な根拠を保ちつつも、それと同時に広くどの専門科目でも育成に寄与できるような、新たなラーニング･アウトカムズを再設定することが検討さ

---

(1) 2012 年度版教育学部のラーニング・アウトカムズは以下のようなものであった。

1. 教育学の研究方法（理論的研究、実証的研究、実験的研究、歴史的研究、国際比較研究）について理解し、それらを研究の目的と対象に応じて適切に駆使する。
2. 世界を教育学的な「区別（見方）」から捉え、他の「区別（見方）」（経済、政治、法など）との関係において、そこに（教育）問題を発見することができる。
3. 教育的価値（何を学ぶべきか、正確には学ばせるべきか）についての思索を深めながら、それを具体的な教材レベルにまで加工できる。
4. 教育技術を反省の対象として位置づけた上で、実際にそれを駆使することができるとともに、自らそれを摂取・開発しようとする構えを有する。
5. 人間の心理現象について理解し、その知見を被教育者との教育的関係の構築に発揮できるとともに、終わりのない人間理解（人間は絶えず成長しようと変わっていくものだから）を追求し続ける構えを有する。
6. 人間の心の成り立ちやその現象について理解し、その知見を、被教育者との教育的関係の構築や改善、ならびに、教育以外の対人援助の仕事や諸活動において発揮できる。また、社会人として生きていくうえで、各人の持ち場において、心理学で学んだ知見を活用しうる。
7. 心理学は、人間の心について客観的、体系的にアプローチする一つの科学であることを認識し、科学としての学びであることを体得する。と同時に、人間の心の不可思議さへの謙虚な姿勢、また、既存の理論や概念のみでは心についてまだ解明しきれないことも多いことに自覚を持ち、終わりのない人間理解を追求し続ける構えを有することができる。
8. 教育を社会制度やその歴史の中に位置づけて理解するとともに、教育学の一般性からそのあるべき姿を模索し続けることができる。

れた。その議論の中で、日本学術会議で示されたような「知識・理解」「汎用的能力」「態度・構え」の区分にしたがってアウトカムズを設定する方が、社会に対して説得力を持つのではないかとの提案があり、この条件を満たしたアウトカムズを設定しようと試みた。

このような問題意識から、他大学のラーニング･アウトカムズも参考にして、現在以下のような、新しいラーニング･アウトカムズの案が出されている。

創価大学教育学部　新ラーニング・アウトカムズ〔案〕

知識・理解

1. 教育学と心理学に関する基本的な知識を理解する。
2. 教育学と心理学の研究方法を理解する。
3. 世界（経済、政治、倫理、宗教、自然、芸術、身体、そしてこころ）の諸問題を理解し、そこに教育問題・課題を捉えることがきる。

考える力

4. 世界と自己自身の間を結びつける意味で、反省的に思考することができる。
5. 世界の諸問題を教育学的または心理学的な観点から分析的に思考することができる。
6. 世界の諸問題の解決を教育実践または臨床実践としてデザインする意味で、構想的に思考することができる。

行為する力

7. 教育学と心理学の研究方法を対象と目的に応じて適切に利用できる。
8. 世界の諸問題に対する教育実践上あるいは臨床実践上の解決を見出し、それに取り組むことができる。
9. 教育実践または臨床実践に、同僚性のなかでリーダーシップを発揮しながら取り組むことができる。

態度

10. 自他とのコミュニケーションを通して、絶えることない自己成長を追求する態度を持つ。
11. 価値に対する謙虚さを自覚しなければならない意味で、教育学的な倫理性を持つ。
12. 他者の主体性を尊重しながら、その成長を支え促そうとする教育学的な責任感を持つ。

上記の案をもとに教育学部教授会で議論し、学部としての合意を図る予定である。12 項目に及ぶアウトカムズは煩雑に過ぎるとの意見もあるであろうが、カリキュラム･マップの作成とともに教授会員の意見を反映させ、よりよいものにしていきたい。

【３】カリキュラム・マップの作成と到達度の測定

ラーニング・アウトカムズを上のような理念のもとで再設定するに当たっては、すでに述べたように、カリキュラム・マップについても同時に作成して教授会に諮ることになる。カリキュラム･マップの作成が、ラーニング･アウトカムズ改訂の直接的な動機だからである。本来であれば本報告の前に学部教授会で確定しておくべきところであったが、３月の教授会で議論し、アウトカムズとマップの両方を何とか今年度中に確定させたい。

作業としてはやや遅れてしまうが、ラーニング･アウトカムズ達成度の測定方法の開発および実際の試行については、2015（平成 27）年度以降すみやかに取り組んでいきたい。

なお、こうしたカリキュラム関連の作業に先立ち、教育学部では 2014（平成 26）年度より独自の学生生活調査を始めた。学生たちの各学年における学習活動の実態や学生生活における意識を調査し、また経年的に追跡することをとおして、４年間にわたる学生生活を個別的に、また集団的に支援していこうというのがその目的である。そのような生活調査と具体的な各授業におけるアウトカムズの到達度の測定を組み合わせることで、いわば２つの座標軸を用いて学生指導に当たり、学部としての特徴を出していきたい。